

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100052		
法人名	社会福祉法人 麗沢会		
事業所名	グループホーム 花の里かるまい		
所在地	〒028-6302 事業所住所 岩手県九戸郡軽米町大字軽米22-42		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中心街から離れた郊外の高台にあり、老健施設と隣接、小規模多機能ホームと併設している事業所です。事業所の周りには東屋から見渡せる広い庭があり、桜、芝桜、ツツジ、紫陽花、紅葉を楽しめます。新型コロナウイルス感染症が5類となり、町の行事も通常に戻りつつありますが人混みへの外出は制限をしています。そこで職員が様々な屋内行事を企画し、利用者様に楽しい時間を過ごして頂いております。職員は有資格者が多く、定期的な研修により知識・技術の向上に努め、利用者様が安心・安全な生活を送れるように努めています。災害時には各事業所が連携を図り、自家発電機、非常食を共有できる体制を確保しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町の中心部から少し離れた高台にあり、隣接地には同法人が有する老人保健施設があり、小規模多機能施設も併設されている。老人保健施設の看護師が定期的に利用者の健康管理のために訪れており、災害時や予防接種等での連携体制を構築している。また、併設されている小規模多機能ホームとは廊下でつながっているため利用者同士の交流が行われ、行事や避難訓練も3施設が協力して実施している。老人保健施設と協力し2、3か月に1回「健康だより」を町内会の協力を得て全世帯に配布し認知症や栄養情報等を提供している。事業所のほとんどの職員が、介護福祉士の資格を持ち、専門性を活かした介護サービスを実践している。地域包括支援センターからの依頼を受けて、認知症サポーター養成講座に講師として参加し、認知症や事業所の理解を深めていただけるよう努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、理念についての研修を行っている。玄関前や共有スペースに理念を掲示し、日々意識出来るようにしている。理念の言葉の意味を深く掘り下げ、共通の認識ができるように、グループワークを行った。	開設当初につくった理念を玄関前等、職員が目につくところに掲示している。職員全員が理念について共通の認識を持つことができるようグループワーク研修を行っている。毎年、研修を行っているため職員の理解も深まり浸透が図られてきていることから、今年度は、理念に沿った事業計画をたて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の流行により、地域行事への参加等はなかなか機会を持たない状況が続いている。町内の床屋さんが来所されての散髪や地域のスーパーからの買い物代行や食材購入にてつながりをもっている。老健と協力し町内会へ「健康だより」を定期的に配布し、情報発信をしている。	コロナ禍の影響が続いており、地域行事への参加は難しいが、法人の老人保健施設と共同で「健康だより」を2か月に1回、町内会の全世帯に配布し食事や認知症等の情報を提供している。近隣の理容師が毎月来所して散髪してくれたり、職員が、スーパーに買い物代行するなど、日常的に交流するように努めている。また、地域包括支援センターが主催する認知症サポーター養成講座に講師として参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症カフェ「かだある茶屋」や認知症サポーター養成講座への職員派遣をしている。依頼があれば共食事業などで認知症講座を行っている。岩手県立大学の看護実習生を毎年受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催。職員も順に参加し会議がどのように行われているか把握できるようにしている。感染症流行時には書面開催を行い、疑問や意見を返信して頂くようにした。行事参加は短時間で行うため、利用者様の様子を把握できない部分もあるが、感染状況を考慮し行事参加などの機会を確保していきたい。	民生児童委員や町内会長、地域包括支援センターの職員、有識者が委員となり2か月に1回開催している。事業所から利用状況、業務内容、事故やヒヤリハットの報告を行い、活発な意見交換を行っている。委員から出された意見をサービス向上に活かしている。6月の避難訓練は運営推進委員も見学し、その助言を次の訓練の改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認知症カフェ・キャラバンメイト活動時は町の職員が参加しており、情報交換をしている。町より利用者の紹介を受けたり、入居の空きの間い合わせもある。介護保険制度の疑問点などは、二戸広域や町へ照会し、指導や助言を受けている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が委員として参加している他、行政主催の認知症カフェや認知症キャラバンメイト開催時には、事業所の職員も参加する等、顔なじみの関係となっている。要介護認定申請に際しては、二戸地区広域行政事務組合から指導や助言を受ける等の協力関係を築いている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる事案はない。玄関の施錠は日中行っていない。外に行きたい時は出来るだけ付き添い、散歩をしたり、外と一緒に眺めたりしている。委員会を中心にスピーチロックについて研修を行い、言葉のかけ方についてを検討した。他にも、身体拘束についての新聞記事の回覧を行っている。	身体拘束廃止委員会を開催し、年に2回全職員が身体拘束に関する研修を受講している。昨年「気づきシート」を作成し、ケアや言葉遣いでそれぞれ気が付いた点を記入・回覧し、2、3か月に1回振り返るとともに全体で話し合いを行っている。現在、身体拘束している利用者はいない。身体拘束についての新聞記事等を回覧し理解を深めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に、不適切ケア(グレーゾーンのケア)の勉強会を行っている。気づきシートを記入し、より良いケアへつなげる取り組みをしている。また、「接遇」についての研修を全職員へ対し行った。表情・声掛け・態度など気を付け、おもてなしの心を持ち接する事が必要との再確認をした。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を中心に、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、料金、サービス内容についての説明は丁寧に行っている。不安や疑問はいつでも話して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族来所時・サービス計画書変更時・電話時に意見や要望を伺うようにしている。利用者の方からは、普段の会話の中での意見や要望の吸い上げを行っている。出された意見・要望・苦情は検討を行い、対応策を実施している。その内容については玄関へ掲示している。	家族が利用者の通院や要介護認定申請等のために来所した時や電話連絡時に、意見や要望等を把握するよう努めている。利用者の意向については、普段の会話の中で確認している。意思表示が難しい利用者については、表情や家族の話から要望を把握している。散歩や草取り、ドライブ、自宅に帰りたい、食べたいもの等の要望が多く、実現できるものは速やかに対応している。	

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、併せて業務改善会議を開催し、業務上問題となっている事、設備に関する事などを出し合って話し合い、対応を検討している。一例として、今夏の暑さ対策として業務時に少しでも涼くなるよう、ネッククーラーリングを全職員へ支給した。ホールエアコンを換気機能の付いた機種に変更予定である。(特にも感染症対策の為に防護具を身に付けている時は非常に暑いとの声が多かった)	毎月開催している職員会議で職員の意見や提案を把握するように努めている。今夏は、非常に暑かったので熱中症対策として、ネッククーラーリングを購入した他、ホールのエアコンを換気機能のある機種に順次更新する予定としている。個人面談は、非正規職員のみ実施している。夜勤等希望に沿えるように現場の責任者となっている副管理者がそれぞれの希望を聞く体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等を通じ、職場環境の整備を図っている。勤務状況に関しては、個々の諸事情を考慮し出来る限り柔軟に対応している。資格に応じた手当の支給をしている。手当の改定の際は、都度職員へ説明し内容の回覧を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護プロフェッショナルキャリア段位制度の取り組みを行っている。職員はグループホーム・小規模多機能と合わせてアセッサーが2名・レベル認定を受けた者が6名。自身の日々のケアを見直す良い機会となっている。モチベーションの維持につながっている。医療的ケア研修・実践者研修等、外部研修へも派遣している。内部研修は、各委員会が中心となり定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に所属している。感染症の流行や開催地が遠方であった為、協会の研修会には現在参加していない状況である。近隣のグループホームと電話での情報交換をしたり、助言を受けたりする機会があり交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に困っている事などを十分に確認し、支援へつなげるようにしている。表情や言葉遣いに注意している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受け止め不安や要望、困っている事など十分に聞き取り、安心して利用して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族が何に困っているのか聴くようにしている。入居困難な場合は、他のサービスなどへ助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と共に生活をしているという認識である。状況を考慮したうえで、家事や掃除等出来ることを手伝って頂いている。役割を持って頂けるよう取り組んでいる。感謝の気持ち伝えるようにしており、職員はいつも利用者に助けられていると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度の家族通信にて生活の様子や健康状態についての報告を行っている。感染症流行に伴う面会規制があったが、R5/6/15より対面での面会を可能としている。(人数・時間の制限はあり)他に、リモートでも面会が出来るよう整備している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策の為、外出は難しい状況であったが、現在は状況に応じて家族との外出が可能になっている。自宅や郵便局へ出かけている方もいる。また、家族と電話をしたり、宅配便で贈り物が届く方もあり、交流されている。	利用者の中には、毎月家族と共に自宅に帰ったり、夫に会いに行く人や墓参りに行く人もいる。また、家族から、母の日や誕生日のプレゼントやお歳暮のお菓子を送られる人もいる。隣接する小規模多機能ホームに宿泊している知人と会話を楽しむ人もいる等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者と会話をし話の聞き役になって下さったり、食後のお膳を片付けて下さる方もあり、協力されている場面も見受けられる。利用者間の交流が図れるよう、職員が間に入り会話の橋渡しを行っている。利用者間の関係により、座席の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か困り事がある場合は、相談に乗る旨をお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの会話から、出来る事ややりたい事を聞き取るようにしている。表情や行動を観察し、思いを汲み取れるようにしている。申し送り、会議、日誌、ケース記録等で職員間での情報共有を図っている。	普段の会話の中から思いや意向の把握に努めている。また、意思表示が困難な利用者が3人ほどおり、表情等から思いや意向の把握に努めている。申し送りや会議の中で共有するとともに、「私の暮らし方シート」に一人一人の希望、嗜好品などを記入して情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・前担当ケアマネージャーから情報を得るようにしている。センター方式のB3シート(私の暮らし方シート)を活用している。居室担当者が中心となりこれまでの暮らしについて把握に努め、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の観察を行い、本人の意向を確認しながらやりたい事をして頂いている。ケース記録、日誌、チェック表など活用し情報共有を図っている。変化がある場合は、こまめにケース記録へ記入行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6か月に1回見直しを行っている。本人・家族へも今の思い、要望・希望を聞き把握している。居室担当者を中心に、看護師の意見も踏まえカンファレンスを行っている。心身の状態の変化や、転倒等の事故があった場合などは都度見直し、必要に応じプランの変更を行っている。	6か月に1回見直しを行っており、介護計画作成担当者と居室担当職員が原案を作成し、カンファレンスで決定している。電話等で確認した家族の意向やかかりつけ医、健康管理をしている老人保健施設の看護師の意見も踏まえ作成している。また、状態に変化があった時には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プログラムチェック表用い、毎日プランが実施されているのかをチェックしている。また、ケース記録や日誌を活用し、職員間で情報の共有を行っている。それらを介護計画の見直しに役立てている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物など本人の希望があれば、好きなものを代行して購入している。家族が対応できない場合は、事業所で購入の対応をしている。本人・家族のニーズに応じた対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の床屋さんに来所してもらっている。なじみの関係になっており、会話を楽しんでいる利用者様も多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族対応としているが、必要に応じ送迎を行ったり、付き添い介助を行っている。家族対応での受診の際は、最近の様子をまとめた用紙を作成し、医師へ情報が伝わりやすいように対応している。事業所で受診の対応をした場合は、必ず結果を連絡・報告し、情報の共有に努めている。	利用者のほとんどは協力医療機関である県立軽米病院をかかりつけ医としている。9月に新たに入居した利用者は、家族の希望により軽米病院にかかりつけ医を変更している。歯科は町内及び南郷町の歯科医の訪問診療を受けており、皮膚科は八戸市の医療機関に家族が同行受診している。家族が受診対応する際には、事業所で利用者の状況をまとめた「情報提供シート」を持参している。また、事業所で送迎した時や訪問診療の受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する老健看護師が非常勤で勤務し、利用者の状態把握に努めている。健康について相談できる為、看護師の勤務日を心待ちにしている利用者の方もいる。日誌や口頭で情報を共有し、状態変化ある際は都度、報告・相談をしている。内服薬について、下剤の調整・皮膚トラブルの相談こまめに行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、情報共有シートの活用、入院に至るまでの経緯を報告している。入院中も病院関係者と情報交換し、退院時のカンファレンスも行っている。電話にての情報収集も行っている。		

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針を作成しているが、現在までに看取りは行っていない。入居時に重度化や終末期についての意向を伺い、都度確認を行うようにしている。隣接する老健や協力病院と連携を図り支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を策定しているが、医療体制が整っていないため看取りは行っていない。入居時に事業所ができることを説明し、家族の意向を確認している。状態が変化した時等には再度説明し意向を共有している。重度化した場合でも、医療的ケアを受けておらず経口摂取できれば事業所に対応するようにしている。入浴については、事業所での入浴が困難な利用者は、隣接している小規模多機能ホームの機械浴を利用し支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を中心に、緊急時対応のフロー・緊急連絡網を整備し、電話口に常備している。喀痰吸引については、吸引器の取り扱いについての手技の研修を年に数回行い、全職員が急変時に慌てず行動出来るよう物品の準備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。日中・夜間の火事を想定している。1回は消防立ち合いにて実施、もう1回は運営推進会議の際に実施し、委員の方々に評価して頂いている。隣接する老健とも連携を図り、取り組んでいる。発電機や非常食を老健と共有している。	年2回、避難訓練を行っている。1回目は日中の火災を想定し6月の運営推進会議に合わせて実施した。委員の方々は、見学の上で最後に助言していただいた。2回目は12月の日中に夜間の火災を想定し、小規模多機能ホームや老人保健施設と連携を図りながら実施する予定である。高台にあるためハザードマップ上は浸水地域にはなっていない。災害用の備蓄等も老人保健施設と共同で備えている。	夜間想定での避難訓練においては、外が薄暗い時間帯に実施し、夜間に避難する難しさや課題を把握するとともに、近隣に居住する運営推進会議の委員にも参加していただき、利用者の見守りをしてもらおう等、一定の役割を果たしてもらおうことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行い、接遇やプライバシーの保護について再確認を行っている。介護施設ではプライバシー・個人情報と密接に関わるということのを忘れずに、十分に気を付けていく事としている。	接遇やプライバシーの保護、個人情報の取扱いについての職員研修を定期的に行っている。利用者の呼び方は、名前で呼ぶことが多いが、本人の意向に合わせている。トイレや入浴の誘導は、さりげなく支援するよう努めている。排泄が失敗した時等、他の人に見られないように羞恥心に配慮し対応している。ケース記録等は部外者の目に付かないようキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認を行いながら希望や思いを汲み取るように心がけている。本人が選んだり、決められるよう声をかけ支援している。普段から話しやすい雰囲気作りに努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思確認を行いながら声をかけ、本人のペースにて過ごして頂いている。無理強いせず、時間をずらしたりし本人の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んでもらったり、季節や気温を考慮し声掛けをしている。定期的に床屋さんに訪問をお願いしている。男性は、毎日電気シェーバーで髭剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託をしており、冷麺やcoco吉のカレー、吉野家の牛丼が提供されたり、利用者様の喜びに繋がっている。レク活動ではおやつ作りを行い、季節を感じられるもの、昔ながらのもの(桜もち・みそ餅・豆腐田楽等)を作り喜ばれている。毎日ホワイトボードへ献立を書き、それを見て食事を楽しみにされている方もいる。食器拭き・おしぼりたたみお手伝いしている。	調理は委託しているため、利用者の食事の希望について毎年アンケート調査を行い、その結果を委託業者に伝えている。委託業者の寿司職人が来て実演する利用者の好みに合わせた握りずしや冷麺、カレー等が好評である。行事食として敬老会にはお祝い御前、誕生日には町内の店から購入したケーキを提供している。自分達で調理するおやつは、利用者の意向に沿った五平餅や柏餅、スイートポテト等を職員と一緒に作り、利用者さんの大きな楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老健の栄養士の管理の元、カロリー栄養のバランスはとれている。刻みやお粥、ミキサー(ソフト)食の対応は都度状態に合わせて行っている。チェック表を活用し、摂取量の把握に努めている。むせ込みやすい方には、水分にとろみをつける対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、本人の状態に応じて、声掛け・見守り・介助にて行っている。義歯は洗浄剤につけたり、うがいが出来ない方はウエットティッシュにて口腔清拭の介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が行えるよう、排泄チェック表を活用し、声掛け・誘導を行っている。しぐさや表情を確認し、誘導を行っている。日中・夜間でパッドの大きさを変えている方もいる。	できるだけトイレで排泄できるよう起床後や食事前後等に排泄チェック表を活用して声掛け誘導を行っている。自立している利用者が1名おり、布パンツを利用している。7名はリハビリパンツとパットを利用し、利用者の状態に応じた支援を行っている。また、ベッド上でオムツ交換をしている利用者も1名いる。便秘の人には水分の摂取量を多くする等配慮している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量についてチェック表を活用し、把握している。ヨーグルトや牛乳の提供を行っている。飲み物も好みの物を選ぶよう、希望を聞きながら対応している。また、事業所内や外の散歩をし、運動の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそうした支援をしている	入浴は週2回で曜日を決めているが、希望や拒否がある場合は、柔軟に対応している。状態に合わせて小規模多機能ホームに設置されている機械浴の対応を行っている。季節を感じられるよう、菖蒲湯・ゆず湯を企画している。個浴である為、本人の思いを聞く大切な時間となっている。	入浴は月曜から土曜日まで週2回、午前から夕方まで可能であり柔軟に対応している。菖蒲湯やゆず湯等工夫して季節を感じてもらっている。水虫の人もいるため、足浴を毎日行っている。入浴が困難な利用者は、隣接の小規模多機能ホームの機械浴を利用している。入浴は利用者が職員との会話を楽しむことのできる時間ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に応じて過ごして頂いている。室内の温度管理や明るさに気を付けている。こまめに本人への確認を行い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で管理をしている。食事の際、職員2名にて確認し服薬介助をしている。薬の内容についてはケース記録へファイリングを確認している。また薬変更時は日誌や申し送り等で情報共有をしている。薬の箱に薬の名前・用量を記載し、セット間違いが起こらないよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯たたみ等、毎日のご自分の仕事として手伝って下さっている。また、花や野菜を植え、水やりや草とりを行ってくださる方もいる。カラオケが好きな方もあり、行事の際は盛り上げ役として参加して下さる方もおられる。一人一人に合わせた過ごし方が出来るよう支援している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行により、外出の機会はなかなか持てない状況であった。日常的には、事業所周辺の散歩を行い気分転換を図っている。二戸市までの桜の花見や町内のチューリップ園へドライブへ出かけたり、老健での花火見物を行っている。また、事業所内での過ごし方を充実させる為に、委員会を中心に夏祭りや運動会の開催をし、利用者の方々からは好評であった。楽しんで頂けるよう工夫し支援している。	天気の良い日には隣接の老人保健施設の周囲を散歩したり、小規模多機能ホームの花壇等の花を鑑賞している。春は二戸市の八重桜や町内のフォレストパークのチューリップを見に出かけ楽しんでいる。秋には紅葉狩りに、道の駅折爪周辺にドライブを予定している。室内ではあるが、小規模多機能ホームのホールで運動会や夏祭り等を開催し体を動かしながら楽しむことができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と相談し、ホーム預かりや本人持ちとして、個々の希望に合わせて対応している。小遣い帳を付け、2ヶ月に1度家族通信の送付に併せて家族への報告を行っている。また、本人の希望がある場合、お菓子や飲み物、文房具を代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人・家族から希望があれば対応している。週に数回家族へ電話をかけている方もおられる。郵便物についても、家族へ確認しポストへの投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高く開放感がある。写真やレク活動で作成したものを飾っている。デッキに出て外を眺めたり、花を飾ったりと季節を感じられるようにしている。ホールや各居室にはエアコン・床暖房があり、適切な温度を保てるように配慮している。清掃・消毒・換気はこまめに行っている。	共有空間のホールは、天井が高く解放感があり、落ち着いた色彩となっている。床暖房とエアコンで温度管理しており、冬は加湿器を置き快適に過ごせるようにしている。壁面には利用者で作ったパステルアート等の作品が飾られたり、七夕飾りで季節を感じられる工夫がされている。テーブルやソファ、テレビ等が設置され、利用者は思い思いの場所で過ごしている。北側の大きい窓から外の景色を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファ(3人掛け×2)や食事・作業用テーブルを設置している。それぞれが思い思いの場所で過ごされている。併設の小規模多機能ホームまで廊下を散歩される方もいる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室にはクローゼット、床頭台、ベッド、エアコン が備え付けられている。家族の写真や作品を 飾ったりしている。テレビ・ラジオを持参されて いる方もおられる。小物類(置時計、ぬいぐるみ、神 社の御札など)なじみの物を置き、少しでも居心 地の良い場所を作るように支援している。	居室にはクローゼットやベッド、エアコン、床頭台 等が備え付けられている。利用者は、使い慣れ たお茶碗やはし、ラジオや家族写真を持ち込み、 自分が書いた絵等を飾り自分らしく過ごせる快適 な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方には扉に大きく名前を付け たり、トイレには張り紙をしている。室内は段差も なく、共有スペースには手すりを設置するなど、 安全に配慮している。		